

授業科目(ナンバリング)	マリンスポーツ I (CC109)			担当教員	江島 弘晃		
展開方法	実技	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・集中	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
スキューバダイビングの専門的知識および技能を獲得し、C カード（認定証）を取得し、オープンウォーター（OW）ダイバーになることを目標とする。また、C カードの取得課程において、海の自然やそこにすむ生き物に実際に触れることで、海の楽しさ、海の素晴らしさ、海の大切さを実感する。							①⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	オープンウォーター（OW）ダイバー認定を取得することができる。					座学認定試験 実技認定試験	20% 10%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	バティ、グループメンバーと安全管理を含めたコミュニケーションをとることができる。					授業態度・授業への参加度	20%
協働・課題解決力	スキューバダイビングに必要な理論を理解し、説明できる。スキューバダイビングに必要な理論を理解した上で、技術を習得することができる。					座学認定試験 実技認定試験	20% 30%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
座学認定試験（評価比率 40%）、実技認定試験（評価比率 40%）および講習中の態度（評価比率 20%）を通し、OWダイバーに必要な技能、知識を身につけているかを評価する。 座学認定試験の結果については、採点后に個別にフィードバックを行う。実技認定試験における課題は、個別に口頭にてフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
海洋実習 A では、浅い水域において、水中で楽しんで遊ぶ為のスキルや、緊急時の対処法を身につける。海洋実 B では、海洋実習 A で身につけた技術を復習すると共に、ダイビングの楽しさについて学ぶ。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『PADI オープンウォーターダイバーマニュアル』（講習初日に配付） 参考書：特に指定しない。 指定図書：『PADI オープンウォーターダイバーマニュアル』（講習初日に配付）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
・運動能力は問わない。すべての授業に参加し、資格取得に積極的な人を歓迎する。 ・事前オリエンテーションには必ず参加すること。やむをえず欠席する場合は事前に担当教員まで連絡にくること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	オリエンテーション	授業の内容・展開方法に関する説明	シラバスに目を通しておく
2	学科講習（１）	①水中世界、ダイビング器材１、②スクーバシステム、③バディシステム	準備する機材の確認
3	学科講習（２）	①水中世界への適応、②呼吸、③ダイビング器材２、④バディシステム（コミュニケーションと手順）	水中でのコミュニケーション法を実践する
4	学科講習（３）	①ダイビングの環境、潜水計画、トラブルの管理、ボートダイビング	実習時の潜水計画を確認する
5	学科講習（４）	①アクセサリ器材、②ダイビングと健康管理、③深度下での呼吸、④レクリエーションダイブプランナーの使い方	認定試験の模擬問題を解く
6	学科講習（５） および認定試験	①ダイブテーブルとダイブコンピュータの特別な状況、②ダイブコンピュータの特別な状況、③基本的なコンパスナビゲーション、④アドベンチャーを続けよう、⑤レクリエーションダイブプランナーの使い方（つづき）、⑥安全潜水実施要項のまとめ	ダイブテーブルの使い方を復習する
7	海洋実習 A（１）	①器材の装着と調節、②水面で BCD の空気の出し入れ、③水中での呼吸方法、④レギュレーターのリカバリーとクリア、⑤下半分水を入れたマスクのクリア、⑥水中での泳ぎ方と圧平衡の仕方、⑦残圧計の使い方、⑧ハンドシグナル、⑨バックアップ空気源の使い方、⑩浮上の仕方	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
8	海洋実習 A（２）	①器材のチェック方法、②深場へのエントリー、③スノーケルの使用、④水面の泳ぎ方、⑤正しい潜降の仕方、⑥水中でのマスク脱着、⑦マスクなしでの呼吸、⑧中圧ホース取外し、⑨水面で BCD の空気の出し入れ、⑩適正ウェイト量、⑪エア切れ時の練習、⑫浮上の仕方、ウェイトの捨て方、⑬深場からエキジット	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
9	海洋実習 A（３）	①中性浮力の取り方、②中性浮力で泳ぐ、③足のつりの直し方、④疲れたダイバーの曳行の仕方、⑤エア切れとバックアップ空気源の使い方の組合せ練習、⑥フリーフローするレギュレーターからの呼吸方法、⑦コントロールされた緊急スイミングアセント	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
10	海洋実習 A（４）	①スキンドайビングのテクニック、②スクーバダイビングのテクニック	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
11	海洋実習 A（５）	①水面でウェイトをはずし最装着する、②水面でスクーバ器材をはずし再装着する、③水底でウェイトをはずし再装着する、④水底でスクーバ器材をはずし再装着する	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
12	海洋実習 B（１）	①コントロールされた潜降、②水中ツアー	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
13	海洋実習 B（２）	①足がつったときの直し方、②疲れたダイバーの曳行、③スノーケルとレギュレーターの交換、④コントロールされた潜降、⑤中性浮力、⑥下半分と全部分水を入れたマスクのクリア、⑦レギュレーターのリカバリーとクリア、⑧バックアップ空気源の使用、⑨水中ツアー、⑩水面でのウェイト取り外し	使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う
14	海洋実習 B（３）	①水面でコンパスナビゲーション、②視標のある自由潜降、③中性浮力、④全部分水を入れたマスクのクリア、⑤コントロールされた緊急スイミングアセント、⑥水中ツアー、⑦水面でウェイト脱着、⑧水面でスクーバ脱着	テキストにおいて、次の時間に行う内容の部分を読んでおく
15	海洋実習 B（４） および認定試験	①視標のない自由潜降、②浮力コントロール、③マスク脱着とクリア、④水中でコンパスナビゲーション、⑤水中ツアー	コンパスの使い方を陸上で予習する 使用器材の確認を行う 使用器材の後片付けを行う